

大阪市 中 教 研 会 報

No. 130

編集者 大阪市立中学校教育研究会

発行人 大阪市立中学校教育研究会

会長 石 川 文 子

発行所 大阪市立中学校教育研究会

大阪市立宮原中学校

TEL 6394 - 2455



「カリキュラム・マネジメント」と 「社会に開かれた教育課程」

大阪市教育局 センター

所 長 野 嶋 敏 一

「超スマート社会(society5.0)」の到来する2030年以降の社会の変化を見据えて育成すべき資質・能力について、平成30年6月閣議決定された「第3期教育振興基本計画」には、次のように示されています。

“「何を理解しているか、何ができるか」、「理解していること・できることをどう使うか」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という三つの柱で確実に育成するため、新学習指導要領の周知・徹底及び着実な実施を進める。その際特に、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を推進することや、カリキュラム・マネジメントを確立することなどが重要である。”

今まさに、各校においては、新学習指導要領や「改革の第2ステージ」である「大阪市教育振興基本計画」に基づき、この「カリキュラム・マネジメント」が進められていることと思いますが、既に行われている教育や学校運営の活動が個別の改善にとどまっているのか、教育課程の改善という視点で考えられているかを見直していただくことが重要ではないでしょうか。

改善の視点としては、次の3点があげられます。

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列しているか。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせているか。

「カリキュラム・マネジメント」は、校長を中心とし、教科等の縦割りや学年を越えて、学校全体で取り組んでいく必要があります。そのためには、管理職の

みならず全ての教職員がその必要性を理解し、日々の授業等についても、教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組む必要があります。学習指導要領等と指導内容を照らし合わせ、校内研修等を通じて研究を重ねていくことも考えられます。

また、各学校が教育目標を実現するためには、エビデンスに基づいて各学校の子どもたちの姿や地域の実状等をみとることも大切です。今年度の全国学力・学習状況調査の結果では、「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」との質問に、肯定的に回答した全国の小中学校の割合は、平成28年度以降、増加傾向が見られ、平成30年度は9割を超えているとともに、この質問に肯定的に回答した小中学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られました。

加えて、「教育課程の趣旨について、家庭や地域と共有を図る取組を行っていますか」との質問に、肯定的に回答した全国の学校の割合は、小学校で9割、中学校で8割を超えています。学校内だけではなく、保護者や地域の人々等を巻き込み、これからの社会を生き抜く子どもたちに求められる資質・能力とは何かを、社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」の観点から、「カリキュラム・マネジメント」を確立していくことも重要です。

大阪市立中学校教育研究会は、これまでも、その時代の様々な課題に対して、教育の在り方について研究を深め、本市の教育を牽引してこられました。これまでの取組に敬意と感謝を表しますとともに、今後も新学習指導要領を踏まえ、「未来を切り拓く力をはぐくむ教育の創造 ―主体的・対話的で深い学びの実現に向けて―」のテーマのもと研究を深められ、本市の教育を支えていただきますことを心より期待します。



よりよい「学び」をめざして

大阪市内立中学校教育研究会 副会長

全市研究発表会担当 **松 井 宏 之**

中教研の会員の皆様には、各研究部（教科・領域）の活動等にご協力いただきお礼申し上げます。

さて、二学期早々の各ブロック研究発表会に続き、10月10日(木)を中心とした日程で、今年度も全市研究発表会が開催されます。各研究部の日頃の実践や研究の成果が発表されるたいへん貴重な場です。ご多用とは存じますが、多くの会員の皆様のご参加をお願いいたします。

本年度の研究テーマは、昨年度と同じ『「未来を切り拓く力をはぐくむ教育の創造」～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～』となっています。

昨年、公示された学習指導要領では、学校は社会と連携・協働して、これまでの「生きる力」の育成に取り組んできた教育活動をより一層充実させていくことが

求められています。また、これからの時代に必要な資質・能力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）を身につけさせることで、子どもたちが予測の難しい時代の変化に、主体的に関わり、未来社会の創り手となることも求められています。各研究部におかれましては、生徒の実態を踏まえて、「どのように学ぶか」について、指導方法の工夫・改善等の実践研究を着実に進められていることと存じます。今回の研究発表会の参加を通して、よりよい「学び」に積極的にに関わり、明日からの教育実践に活かして、子どもたちの「確かな学び」につなげていただければと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新 ブ ロ ッ ク 委 員 長 の あ い さ つ

＝第2ブロック＝

「学び続けましょう～一人一人の子どもを大切にするために～」

委員長 泉 野 泰 久 (友 渚 中)

現在、多くの学校で私たちは子どもたちの学力向上に日々取り組むことができます。では、子どもたちは実際に自分をしっかりと見つめて、自分の言葉を持って学習し、仲間とつながり、社会に関わっていく力を蓄えることができますでしょうか？私たちの日々の教育実践は、そこに近づけているのでしょうか？

第2ブロックでは今年度の研究主題を「未来を切り拓く力をはぐくむ教育の創造～主体的・対話的で深い

学びの実現に向けて～」としました。このテーマに基づき各部門が研究主題を設定し、8月30日を中心にブロック一斉研究発表会を実施しました。今年度は8部門の領域で行いましたが、4部門の教科においても研究発表会が行われました。

子どもたちの感動や喜びを創り続けるために、私たち教職員は学び続けなければなりません。

ブロック研究発表会の日、多くの先生方が各会場に集まりました。

日々の学びとともに、様々な研修の機会を大切にしていって、一人一人の子どもを大切に教育を実践するために、今後も学び続けていきたいと思います。

＝第6ブロック＝

「生徒の個性を生かし、主体的に学ぶ意欲を

育てる教育活動の研究と推進」

委員長 山 本 哲 哉 (中 野 中)

本年度、第6ブロックでは継続して「生徒の個性を生かし、主体的に学ぶ意欲を育てる教育活動の研究と推進」を研究主題として設定し、5月24日(木)に中野中学校にて専門委員総会を開催、その上で8月30日(木)

を中心にブロック一斉研究発表大会を開催いたしました。本年度は教科を中心の発表予定でしたが、教科・領域問わず活発に発表会が行われました。やはり、新学習指導要領に即した、生徒が主体性を発揮するための実践やICT機器の活用などの発表が多くみられ、先端の取り組みの共有をする事が出来ました。今後さらに研鑽を積み、日々の学校での実践に生かしていただければと考えております。

=第7ブロック=

「豊かな心を育み、
個に応じた学ぶ意欲を高める
教育活動を創造する」

委員長 吉 岡 美由紀 (今 宮 中)

第7ブロックでは、本年度も研究主題を昨年度に引き続き、「豊かな心を育み、個に応じた学ぶ意欲を高める教育活動を創造する」と設定しました。その研究主題のもと、各教科・領域で計画を立て、8月30日

(木) に研究発表会を実施しました。(別日程で実施した教科・領域もあります。)

各会場において、専門委員の先生方が中心となり、研究授業・研究討議・生徒会交流会・講演会・実技研修・実践報告・研究発表・施設見学等、様々な研修が実施されました。会場には、たくさんの会員の皆様にご参加いただき、相互研鑽の場としていただきました。今後、さらに各学校での実践に生かしていただけることを期待しています。

=第8ブロック=

「豊かな心と
未来を切り拓く力を
はぐくむ教育の創造」

委員長 向 井 秀 俊 (木 津 中)

5月24日に木津中学校において第8ブロック委員全体会を開催し、昨年度に引き続き研究主題を「豊かな心と未来を切り拓く力をはぐくむ教育の創造」と設定した。この研究主題に基づき、各研究部門別研究主題を設定するとともに、8月30日を中心に14部門において第8ブロック研究発表会を実施した。

来年度から教科化される道徳への関心は高く、校内研修に位置づける学校もあり道徳部は日程を変えた。松虫中学校において公開授業・研究協議を行い、100名を超える参加があった。

また、特別活動部では、全ての学校の生徒会役員が昭和中学校に集まり、いじめ防止について活発に意見交換を行った。

今年度も会員の皆さまのご協力により、各部門とも工夫した有意義な研究が行われたことに感謝申しあげます。

平成 30 年度 大阪市立中学校教育研究会 評議員会記録

【第3回】 平成30年7月9日(月) 16時～

評議員会及び会計説明会 〈於：大阪市教育センター〉

〈会計説明会〉

- (1) 平成30年度 予算配分について
- (2) 事業予算、予算執行について
- (3) 資金移管書・受入書、金銭出納簿、配付予算精算書について
- (4) 資金移管日時等について
- (5) その他

〈評議員会〉

- (1) 全市研究発表会について
- (2) その他
 - ① 役員、専門委員一覧表について
 - ② 全国・近畿大会予定について
 - ③ 部門別研究主題、ブロック別研究主題及び研究発表会予定日一覧について
 - ④ 中教研会報No.130号の原稿作成について

【第4回】 平成30年9月3日(月) 16時～

〈於：大阪市教育センター〉

- (1) 全市研究発表会【10月10日(木)】について
- (2) 各ブロック研究発表会について
- (3) 研修計画について
 - ① 全体研修会【11月22日(木)】
 - ② 評議員研修会【1月25日(金)】
- (4) 研究集録『研究の歩み』『会報』の作成について
- (5) 小中一貫教育委員会の開催について
- (6) その他
 - ① 会計事務連絡
 - ② ホームページについて

平成 30 年度 研 究 発 表 会

10 月 10 日 (水) 午後 1 時 30 分～ 5 時

部 門	研 究 主 題	内 容	会 場
1. 国 語	「生きる力」としての 国語力の育成 －自分の思いや考えを深める 言語活動の充実－	「がんばる先生支援事業」研究発表会 ・公 開 授 業 「枕 草 子」 －昔と今をつなぐ古典－ 難 波 中 平 島 陽 介 ・研 究 発 表 「新学習指導要領をふまえた書写指導 －多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れる－」 友 渕 中 武 生 京 子 ・質 疑 応 答 ・研 究 協 議 ・講 話 「主体的・対話的で深い学びをめざして 一語り直す行為への着目－」 大阪教育大学教授 松 山 雅 子 様 ・あ い さ つ 大阪市教育センター 指導主事 石 田 かおり 様	難 波 中
3. 数 学	「数学的に考える力を 育む授業の創造」 －課題を自立的、協働的に 解決する力の育成に向けて－ 〔数学科における思考力・表現力 を育む主体的な学びの実現 －思考ツールや ICT の活用の可能性－〕	「がんばる先生支援事業」研究発表会 ・公 開 授 業 「一次関数」 大阪市教育委員会 石 川 邦 子 瑞 光 中 福 永 香 織 「関 数」 新北野中 森 岡 裕 起 新北野中 井 上 貴 之 「空間図形」 淀 川 中 浅 井 恵 子 天 満 中 野 崎 智 亨 茨田北中 辰 巳 慎太郎 ・指導助言並びに講演 國學院大学 教授 田 村 学 様 文 教 大 学 教授 永 田 潤一郎 様 ・あ い さ つ 大阪市教育委員会	新 北 野 中
4. 理 科	「自然の事物・現象につ いての理解を深め、科 学的な見方や考え方を 養う理科教育」	「がんばる先生支援事業」研究発表会 ・公 開 授 業 1 年 1 分野 「凸レンズのはたらき」 野 田 中 山 崎 向 太 2 年 1 分野 「化学変化と物質の質量」 野 田 中 中 川 耀 司 ・研 究 協 議 野田中学校の理科教育と本日の公開授業について 野 田 中 山 崎 向 太 野 田 中 中 川 耀 司 ・質 疑 応 答 ・講 演 会 大阪教育大学 名誉教授 任 田 康 夫 様 ・連 絡 事 項 ・あ い さ つ 大阪市教育委員会	野 田 中
5. 音 楽	「表現と鑑賞 音楽力の向上」 －豊かな感性を育て、 表現力を培う授業のあり方－	・公 開 授 業 【Forever】 1 年 <曲想や全体の響きを感じ取って、表現を工夫しよう> 阿倍野中 瀧 口 弘 美 ・研 究 発 表 「I C T を活用した教科の取り組み」 昭 和 中 徳 山 有 紀 ・研 究 協 議 ・あ い さ つ 大阪市教育センター 指導主事 安 藤 寛 様	阿 倍 野 中
6. 美 術	「あふれる思い、感じる心を 育む美術の時間」 －主体的学びの深まり－ 〔新学習指導要領をふまえた 表現及び鑑賞の幅広い活動 を通して、造形的な見方・ 考え方を働かせ、生活や社 会の中の美術や美術文化と 豊かに関わる資質・能力の 育成を目指す〕	「がんばる先生支援事業」研究発表会 ・公 開 授 業 「世界でたったひとつのケーキ ～想いをのせて～」 加美南中 小 野 舞 子 ・展 示 見 学 「6・8 ブロックの美術の時間」展 ・全 体 会 ・実 践 発 表 (1) 「美術室からの発信 ～つながる教科の取り組み」 木 津 中 仁 張 誠 子 (2) 公開授業について発表 加美南中 小 野 舞 子 長吉六反中 惣 内 千 裕 ・研 究 協 議 ・指 導 講 評 大阪市教育センター 総括指導主事 本 田 妙 子 様	加 美 南 中

7. 保健体育	「保健体育授業における学習意欲を高める協働的深い学びの創造」 ー陸上競技（リレー種目）の指導方法の研究ー	「がんばる先生支援事業」研究発表会 ・公 開 授 業 陸上競技（リレー種目）の指導方法の研究 今 市 中 山 川 太 一 ・伝 達 講 習（指導力向上研修会を受講して） (1) 体づくり運動 董 中 小 林 龍 平 優 (2) 保健学習について 梅 香 中 黒 部 優 ・公開授業に関する研究協議 指導助言 大阪教育大学 准教授 井 上 功 一 様 ・質 疑 応 答 ・あ い さ つ 大阪市教育委員会 指導主事 薙 平 雅 子 様	今 市 中
8. 技術・家庭	「豊かな生活を創造する力を育む技術・家庭科教育」 ー主体的な学びによる課題解決学習ー	・公 開 授 業 ・技術分野 C生物育成に関する技術 ハツカダイコンの栽培実験 ー生育環境の影響を考慮した栽培計画の工夫ー 八 阪 中 鈴 木 朋 宏 ・研 究 発 表 ・家庭分野 B食生活と自立 食文化を支えるだしの力 ー日本の伝統的な和食と地域の食文化ー 本 庄 中 横 山 雅 美 田 島 中 大 野 愛 子 ・質 疑 応 答 ・研 究 協 議 ・あ い さ つ 大阪市教育委員会	八 阪 中
9. 英 語	「英語で積極的にコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」 ～5領域のコミュニケーション能力を総合的に養う～	・公 開 授 業 「即興でのやりとりにつなげる主体的で対話的な学び合いをめざして」 大和川中 矢 島 智 子 ・講 演 文教大学 教授 阿 野 幸 一 様 ・質 疑 応 答 ・講 評 ・あ い さ つ	大 和 川 中
10. 道 徳	「人間としての生き方についての自覚を深める道徳教育の創造」 ー豊かな心を育む道徳の授業づくりをめざしてー 〔道徳授業の指導方法と評価に関する研究を深める〕	「がんばる先生支援事業」研究発表会 ・公 開 授 業 「ふたりの子どもたちへ」 井高野中 村 田 裕 司 ・研 究 協 議 グループ協議 ・研 究 発 表 「道徳の評価について」 研究指定校 拠点校から 全市代表（中間報告） 市 岡 中 加 納 輝 江 ・指 導 助 言 大阪市教育センター教育指導員 宮 脇 賢 治 様	井 高 野 中
11. 特別活動	「生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造」 ーこれからのキャリア教育ー	「がんばる先生支援事業」研究発表会 ・研 究 発 表 1. キャリア教育 ① キャリア教育ご講演 講 演 内 容 「就職活動の現状と大学における支援内容について」 講演者 神戸女子大学 キャリア教育センター キャリアセンター長 岡 田 匡 喜 様 ② キャリア教育報告 報 告 内 容 第67回 進路指導・キャリア教育研究協議会全国大会に参加して 報 告 者 鯉 江 中 楠 見 尚 司 2. 生徒会活動に関する実態調査結果 研究内容発表 「生徒会活動実態調査分析結果について」 分析者 大阪市立大学大学院文学研究科 人間行動学専攻教育学専修 後記博士課程 小 原 淳 一 様 ・質 疑 応 答 ・指 導 助 言 ・あ い さ つ	大 阪 市 教 育 セ ン タ ー 研 修 室 6
13. 特別支援教育	「子どもたち一人一人が、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして」	・研 究 発 表 (1) 青空学級の一年 ー昨年度の活動や取組を振り返ってー 今 津 中 中 田 聡 (2) Aさんの学習支援の取組について 北 稜 中 芝 原 玲 ・研 究 協 議 ・講 評 大阪市教育委員会	大 阪 市 教 育 セ ン タ ー
14. 保健養護	「養護教諭の専門性と資質の向上をめざして」	・事 例 研 究 「ヒヤリハット事例から学ぶ救急対応」 ・講 演 関西医科大学 救急医学科 教授 鎌 方 安 行 様 ・質 疑 応 答 ・指 導 講 評 大阪市教育委員会 指導主事 西 木 澄 江 様	大 阪 市 教 育 セ ン タ ー 研 修 室 5

15. 情報技術	「多様化する情報を活用する力を身につける」	情報教育の部 ・研究発表 「タブレットを活用した理科教材のコンテンツづくり」 梅 南 中 加治屋 直 喜 新聞教育の部 ・基礎講座 ワークショップ 「主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり ―新聞を学習教材として―」 【講師】 朝日新聞社 流通開発部兼教育総合本部 江 原 健 大 様 花園大学前非常勤講師 徳 永 祥 子 様 統計教育の部 ・研究発表 「主体的・対話的で深い学びのために」 友 渕 中 山 崎 真 史	大 阪 市 教 育 セ ン タ ー 研 修 室 3
16. 教育メディア	「生きる力」と「感動する心」を育む教育メディアの研究 ―学校図書館・放送・視聴覚教育を通して―	・あ い さ つ ・講 演 「人を通して本を知る、本を通して人を知る。 ―ビブリオバトルの導入から実践まで―」 大阪大学 サステイナブルキャンパスオフィス 助教 池 内 祥 見 様 ・ワークショップ ・質 疑 応 答 ・あ い さ つ	鶴 見 橋 中
17. 教育課題	「未来を切り拓く力をはぐくむ教育課程の編成」	・研究発表 主題 「タテ持ち型編成を通じた教師力の向上と 21 世紀型スキルの育成」 副題 ―みずから学び、みずから鍛え、みんなと生きる力の探求― 新 巽 中 山 本 昌 平 ・講 演 「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」をテーマに講演をいただき、今日的な課題について研修を深める。 大阪教育大学非常勤講師 丹 松 美代志 様 ・質 疑 応 答 ・あ い さ つ	大 阪 市 教 育 セ ン タ ー 研 修 室 4

10 月 10 日とは別に実施される研究発表会

日程	部門	研究主題	内 容	会 場
10月11日(木) 14:00～17:00	12. 生活指導	「生活指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係諸機関と連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制を研究する」	・研究発表 「アンケート調査の結果から」 ～ 児童虐待と問題行動の平成 26 年度との比較 ～ 瑞 光 中 羽 原 義 章 ・講 演 1 「大阪府警察における児童虐待対策の取り組みについて」 大阪府警察本部生活安全部少年課 児童虐待対策室 警部 森 島 正 木 様 ・講 演 2 「少年非行の現状と被害防止について」 大阪府警察本部生活安全部少年課 少年補導官 警視 金 山 芳 文 様 ・質 疑 応 答 ・指 導 助 言 大阪市教育委員会 指導主事 四 坂 智 和 様	大 阪 市 教 育 セ ン タ ー 講 義 堂
11月22日(木)	2. 社会	「自ら学ぶ力を育み、未来を拓く 社会科学習」 ―ひと・もの・ことをつなぐ 学習の創造―	「がんばる先生支援事業」研究発表会 11月 22 日 (木) 近畿中学校社会科教育研究大会大阪大会に兼ねる ○全 体 会 ・基 調 提 案 天王寺中 辻 純 也 ・記 念 講 演 近つ飛鳥博物館名誉館長 白 石 太一郎 様 ○分 科 会 <地理的分野> ・公 開 授 業 堺市立金岡南中 柿 原 啓 太之 ・実 践 報 告 堺市立福泉中 中 岡 隆 基 堺市立浅香山中 石 田 将 基 ・指 導 助 言 四天王寺大学 教授 中 本 和 彦 様 堺市教育委員会 指導主事 中 澤 野 千 絵 様 <歴史的分野> ・公 開 授 業 太子町立中 佐 伯 侑 大 ・実 践 報 告 淀 川 中 土 倉 ゆかり 松原市立松原第五中 鰐 谷 潤 平 ・指 導 助 言 大阪教育大学 教授 峯 明 秀 様 大阪府教育委員会 指導主事 小 菅 里 子 様 <公民的分野> ・公 開 授 業 今 市 中 中 村 憲 司 ・実 践 報 告 我 孫 子 中 仲 井 美由紀 大正中央中 寺 井 和 弘 ・指 導 助 言 大阪教育大学 教授 手 取 義 宏 様 大阪市教育センター 総括指導主事 川 辺 智 久 様	咲くや この花中 堺市立 金岡南中 ホテルアウリーナ 大 阪 今 市 中